

## 床のお掃除についての提案

まず私たちの身近なところを見てみましょう。

自動車の外装の埃を掃除する時、電気掃除機（真空掃除機）を使う人はいませんね。拭くという方法のほうがより効果があることを経験上知っているからです。

また汚れた手を綺麗にしたいと思う時、乾いたタオルで拭くより湿ったもので拭くほうが効果的で、更に洗ったり洗剤を使えばより効果が高いことも知っています。

これは床においても同じで、床材がカーペットや畳のような材質であれば電気掃除機が効果的で、フローリングやクッションフロアのように表面が平滑な材質であれば、乾いたダストモップ（除塵モップ）で拭く、そして付着した汚れや、よりきれいに掃除したい時は湿らせたモップで拭く方が効果があります。

ダストモップの正しい使い方について考えて見ましょう。普及している物に、ディスク式（使い捨て）の不織布製の物、洗濯によりリピート使用が可能な化繊モップ、レンタルでお馴染みの化学モップなどがありますが、何れも電気掃除機のように集めた埃を溜める機能はありません。

一定の面積を一方向拭きで拭いて、床に集めたゴミやモップに付着した埃をちり取りや電気掃除機で集塵しながら掃除すると効果があります。

化学モップを使われている人は多いと思いますが、このモップで鏡やメガネを拭いて見ると、埃の吸着のための油が付着しているのがわかります。この床面に付着した油による再汚染を考える人は少ない。お寺で廊下や畳の掃除に使って、住職の白い足袋がすぐに黒く汚れてしまうのはこのためです。

先日、掃除の勉強に訪問したオランダの病院で、不織布に油をスプレーしてディスク的に使っていたため、その事を質問しましたら、週1回自動床洗浄機で油を除去しているとのことでした。また真空掃除機についても、カーペットの床では使うが、平滑な床材では使わないとのことでした。

当社では、

カーペットの日常の掃除は電気掃除機（カーペット専用機種ならベスト）で畳は電気掃除機を中心に、時々Eモップの脱水したものが乾いたもので拭く  
フローリング（木床）は湿気を最小限にするため、脱水かきつく絞ったEモップで  
Pタイルやビニールシート（大面積）では少し濡れたEモップで  
いずれも一定面積を拭くたびに綺麗なスペアに交換しながら拭くオフロケーション方式（裏面参照）で一方向拭きでお掃除する方法を提案します。

イ-  
Eモップ（Easy・Ecology・Economy）の特徴  
化繊のため磨耗に強い。

化繊のため繊維そのものが埃のもとになることが少ない。(綿の1/500)  
 化繊のため糸についた汚れが洗濯で取れやすい。(洗剤は薄くてよい)  
 糸がループ型のため接地面がU字となって汚れを(毛髪も)よく取る。  
 形状が長方形のため角の部分の掃除がしやすい。

### 除塵と湿式清拭の比較

	除塵	湿式清拭
使い道	乾いた埃の除去	乾いた埃の他、湿った埃や付着した汚れの除去
モップの種類	不織布、化繊、化学モップ	綿、化繊、マイクロファイバー

### 化学モップとEモップの比較

	化学モップ(乾式)	Eモップ(乾式)	Eモップ(湿式)
使い道	乾いた埃の除去	乾いた埃の除去	乾いた埃の他、湿った埃や付着した汚れの除去
メカニズム	油による吸着	静電気による吸着	湿式による拭き取り
結果	油による再汚染あり	油による再汚染なし	再汚染なく拭き取り効果が大きい
コスト	レンタル料金が必要	時々洗濯の必要があるがコストは安い	毎回洗う必要があるがコストは安い

### レンタル化学モップとEモップのコスト比較(100㎡の住宅)

	レンタル化学モップ	Eモップ(40×12cm)
3年間	@840×17~26回/年×3年 =42,840~65,520円	@1,680×2枚+洗濯代 =3,360円+洗濯代 Eモップの平均寿命=3年以上 (清掃業者使用の場合)

### オンロケーションとオフロケーション

	オンロケーション	オフロケーション
方法	モップを拭くごとに濯いで拭く。(通常の方法です)	拭くたびにスペアのモップに交換しながら拭き、あとで一括洗濯する。
結果	濯ぎ水が汚水となり、汚水で拭くことになる。	常にきれいな水で拭くことになり、床の黒ずみを防ぐ。
効果	洗剤を使う場合、洗剤が汚れて洗剤力が低下するので途中で廃棄、交換の必要があり、地球環境の汚染と共に不経済でもある。	洗剤は汚染されないのが最後まで効力低下が無く、補充するだけで良いので、廃棄量が激減し環境汚染も少なく経済的。